

熊野中学校長通信「がんくま・スクラム」
校訓：自主自律　生徒版 NO.11　令和８年 10 月 29 日号
学校教育目標：「前向き　Be positive.」　　文責：草本



「『表現する』ということ」～感動の文化祭からの学び～

一生懸命だからこそ、心に響くものがある！

文化祭での皆さんの姿に、熊野中学校の「絆の深さ」と「清々しい前向きさ・ひたむきさ」を改めて感じ、校長として誇らしさと感動を覚えたことを前回の「がんくま・スクラム」で伝えましたね。

本気で打ち込み、仲間とスクラムを組んで一つのものを創り上げたからこそ、皆さんの心には今、大きな達成感と同時に様々な思いが残っているのではないでしょうか。

今日は、これから大人になっていく皆さんに、大切にしてほしい「自分の努力への誇り」と「多様な声との向き合い方」についてお話ししたいと思います。

○多様な「感じ方」があるからこそ、表現はおもしろい！

～「想いを届ける」ことの素晴らしさと、多様な「受け止め方」～

私たちが何かを真剣に発信したり表現したりするとき、それを受け取る側には十人十色の感じ方や捉え方が存在します。

・心から感動し、涙を流してくれる人
・自分とは異なる視点や、新しいアイデアをもちながら聴いている人

そのどれもがその人の「感性」であり、世の中には本当に様々な考え方があります。

自分たちが想いを込めて創り上げたからこそ、ほんの少しであっても自分の想定とは違う意見や感想に触れると、時には戸惑ったり、心がキュッと痛んだりすることもあるかもしれません。

しかし、知っておいてほしいのは、「異なる受け止め方があること自体は、決してネガティブなことではない」ということです。それは皆さんの表現がそれだけ多くの人に届き、関心を引き寄せた証拠でもあるからです。

○自分たちの努力に確かな自信と誇りを！　～前を向いて、次の歩みへつなげよう！～

皆さんに決して忘れないでほしいのは、

「皆さんが仲間と汗を流し、励まし合いながら積み重ねてきた努力の価値は、誰のどんな言葉によっても、決して揺らぐことはない。」ということです。

本番で見せたあの真剣な眼差し、圧倒的な響き、そしてやり切った後の誇らしげな表情…。そこにあった感動と成長は、紛れもない本物です。どうか自分たちの頑張りに、胸を張ってください。そして、様々な意見を「自分たちの視野を広げ、さらなる高みへ進むためのヒント（アドバイス）」として受け止める、しなやかな強さを持ってほしいのです。

「違う見方をする人にも届く表現とは何だろう？」

「自分たちが目指す、次のより良い姿とは何だろう？」

その力は、皆さんがこれからの人生で輝きながら、強く生き抜いていくための大切な力に必ずなります。皆さんの今後の更なる成長と活躍が楽しみです。

先生方と一緒に心から期待し、応援していますよ！！